

阿蘇山

火山活動度レベル

火山活動度レベルは、2 (やや活発な火山活動) でした。

概 況

火山性連続微動が 10 月 10 日から 10 月 11 日まで継続しました。また、継続時間の短い火山性微動が時々発生しました。孤立型微動は、1 日当たり 42～92 回で推移しました。

中岳第一火口の湯だまりの量は、増減を繰り返しています。また、湯だまり内での噴湯現象は時々観測されましたが、土砂噴出は観測されませんでした。

噴煙活動の状況

噴煙は白色・少量、噴煙高度の最高は 500m (9 月 : 600m) で、特に異常は認められませんでした(図 1、図 2)。

地震・微動活動の状況

火山性連続微動は、10 月 10 日 06 時 00 分から 10 月 11 日 15 時 19 分まで継続しました(図 3)。継続時間の短い火山性微動は、期間中 31 回発生しました。孤立型微動の日回数は 42～92 回で推移し、月合計は 2,164 回(9 月 : 1,587 回) でした(図 1、図 2)。A 型地震の月合計は 47 回(9 月 : 22 回) で、うち 12 個の地震の震源が求まり、多くは中岳第一火口付近に分布しました(図 1、図 2、図 4)。B 型地震の月合計は 344 回(9 月 : 79 回) と期間中増加しました(図 1、図 2)。

火口や噴気地帯の状況

中岳第一火口の湯だまりの量は、大雨により 10 月 7 日に約 8 割に増加、12 日には約 5 割、15 日には約 4 割と減少していましたが、大雨により 21 日にはふたたび約 8 割に増加しました。湯だまりの色はおもに灰緑色で経過し、湯だまり内で噴湯現象が時々観測されました。また、土砂噴出は観測されませんでした。

湯だまりの表面温度は 64～74 (最高 12 日) で、南側火口壁下の温度も 127～169 (最高 21 日) と前月と比較すると大きな変化はありませんでした(図 1、図 2)。

(温度測定は、赤外放射温度計による)

地殻変動の状況

GPS による地殻変動観測では、草千里 - 砂千里浜、草千里 - 仙酔峡、砂千里浜 - 仙酔峡の各観測点間の基線長には、火山活動に起因する変化はありませんでした(図 5)。

8 月下旬頃から、草千里 - 砂千里浜、仙酔峡 - 砂千里浜で数センチの縮みが見られましたが、台風による風の影響であることが判明しました。

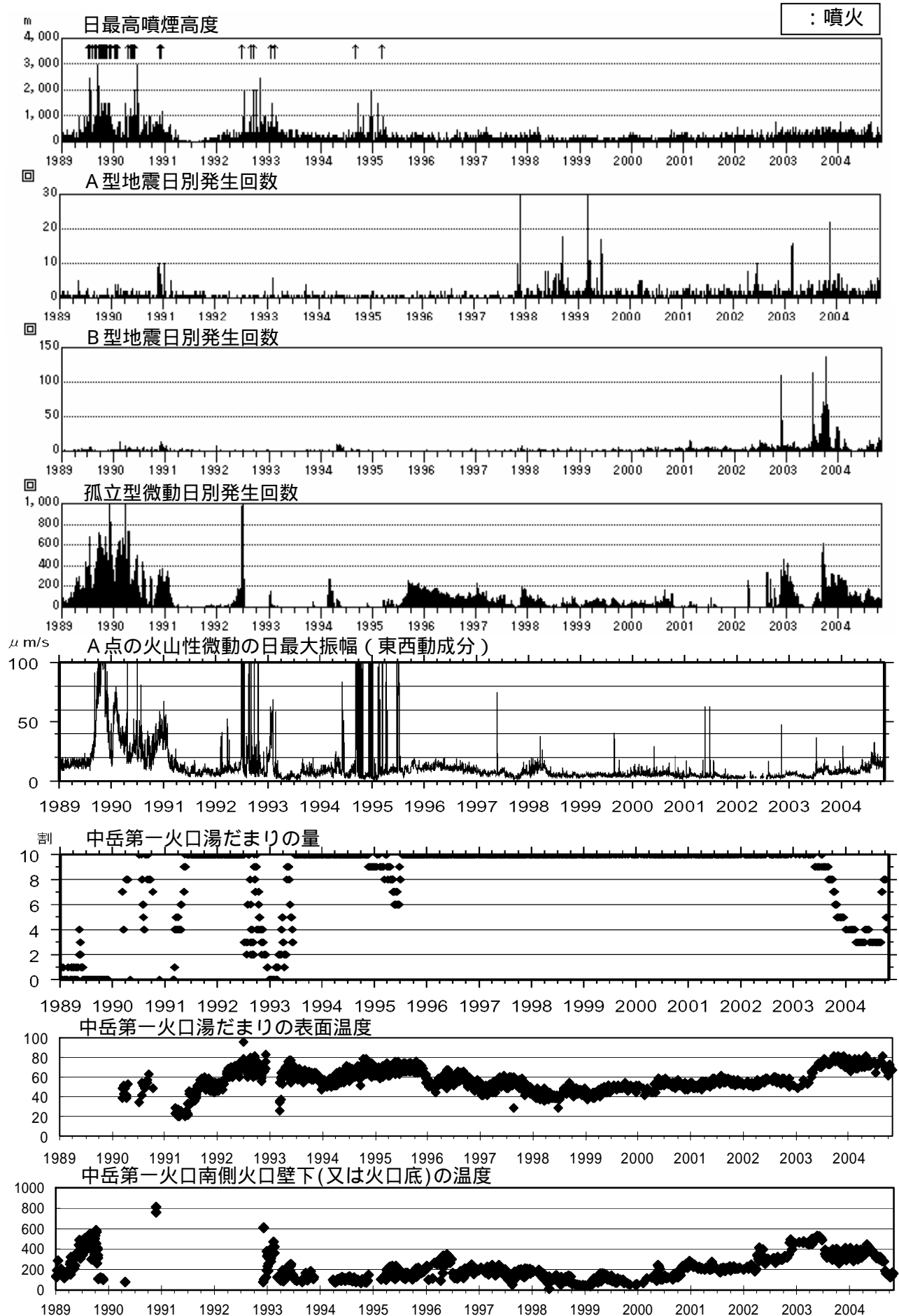


図1 火山活動経過図(1989年1月1日~2004年10月31日)

阿蘇山

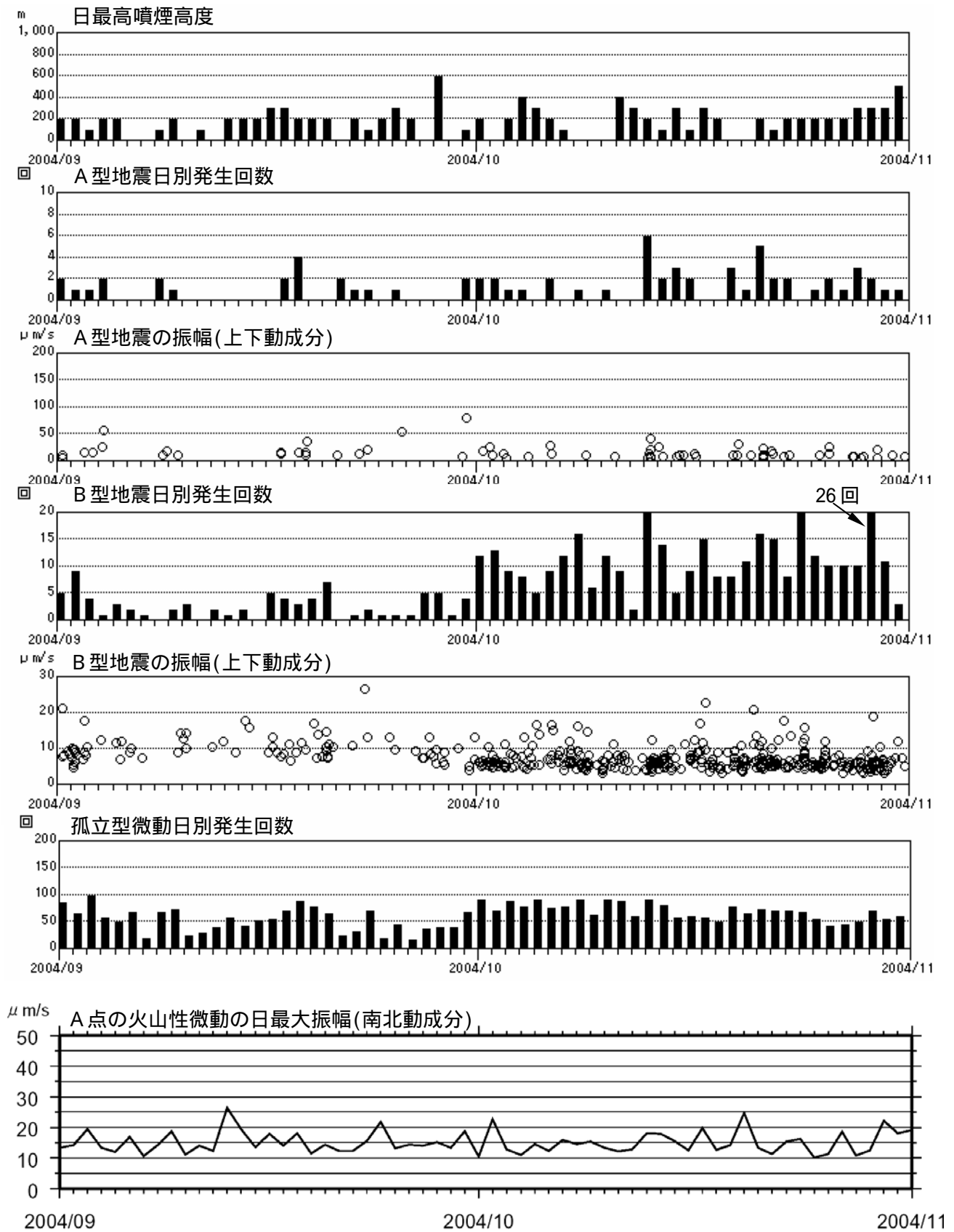


図2 火山活動経過図(2004年9月1日~10月31日)

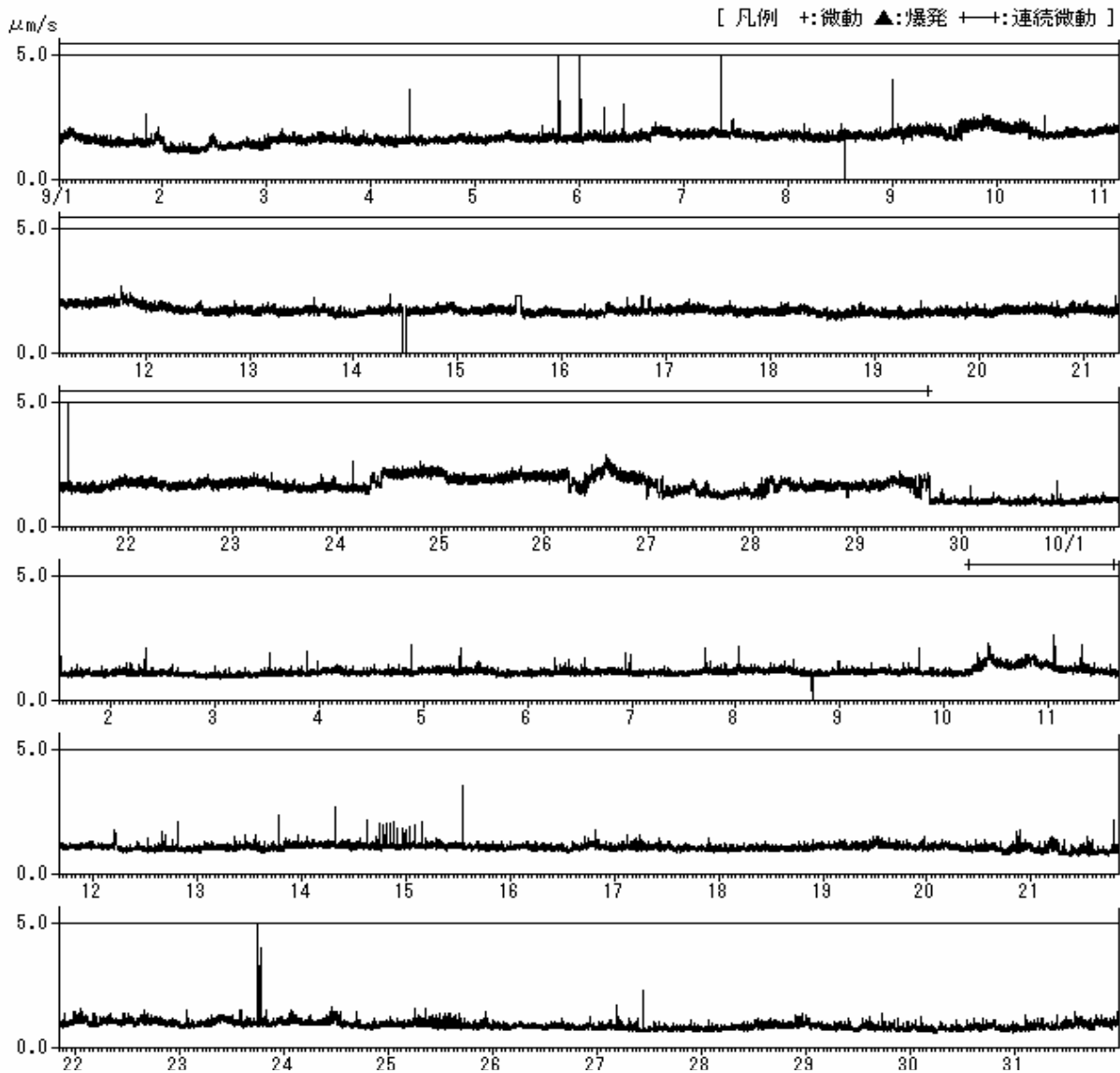


図3 1分間平均振幅の時間変化(A点南北動成分)(2004年9月1日~10月31日)

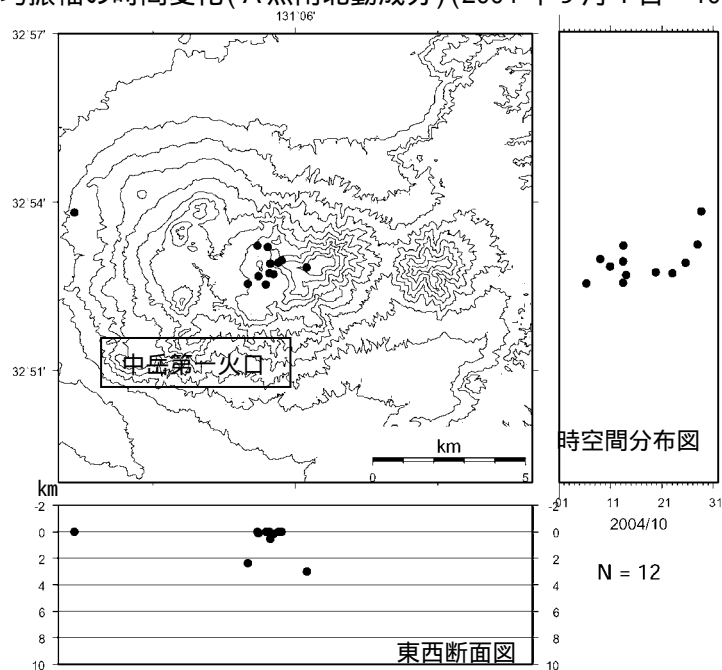


図4 震源分布図(2004年10月1~31日)

本資料は、防災科学技術研究所、京都大学、気象庁のデータを用いて作成した。

阿蘇山

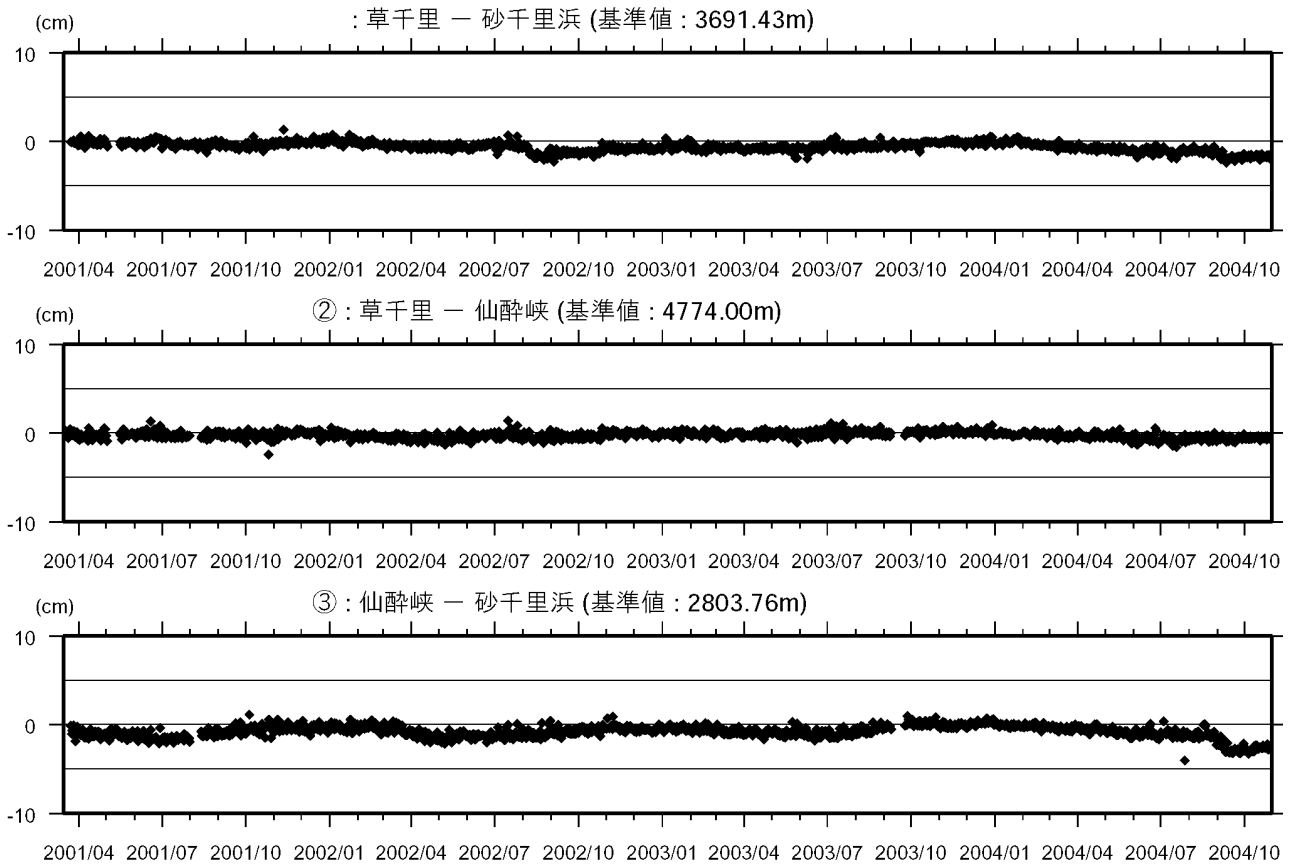


図5 GPS観測による基線長変化(2001年3月15日~2004年10月31日)

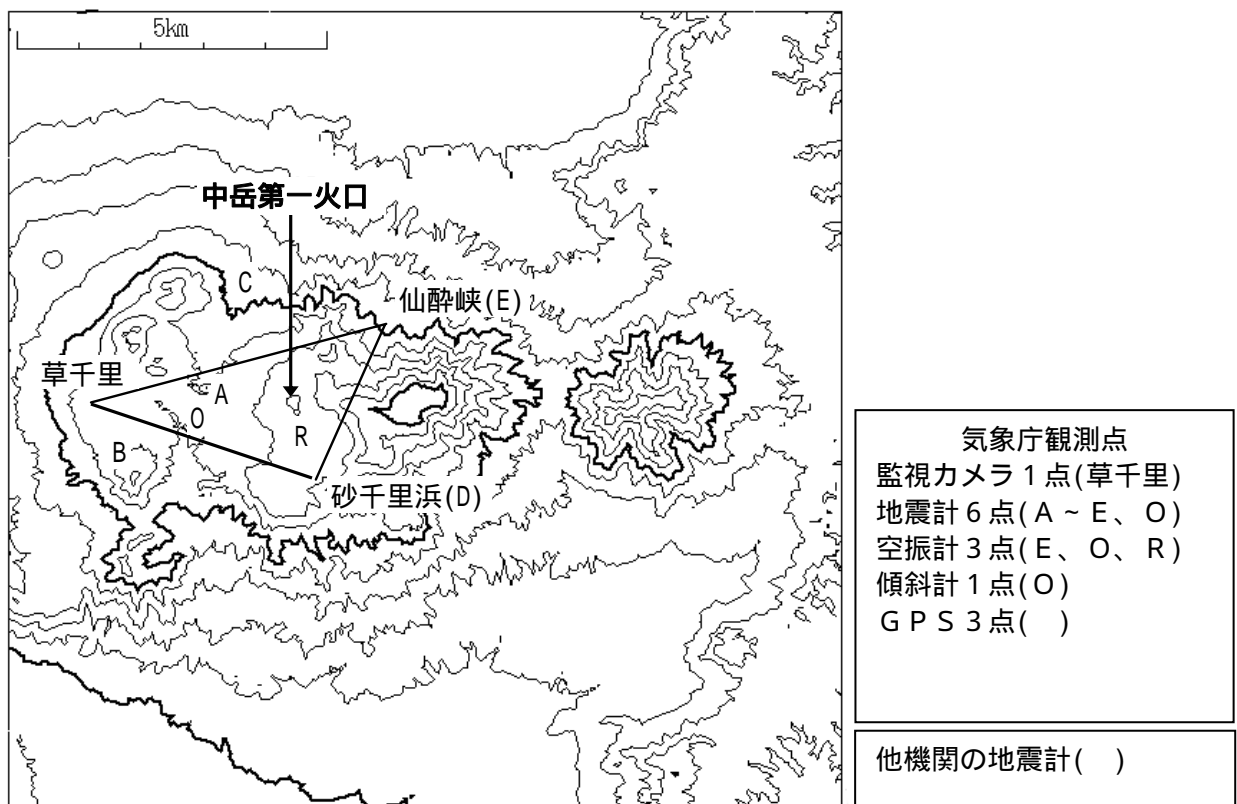


図6 観測点位置図